



クイック・スタート

「はじめに」で述べたように、ウェブアプリの開発環境を準備するのは少し面倒なので、ライブ CD (GNU/Linux) 用のイメージファイルを用意しました。このライブ CD からコンピュータを起動すれば、準備作業をすべてとばして、すぐに本題に入ることができます¹⁾。ただし、このライブ CD を Mac 上で直接起動することはできません。

2.1 ライブ CD の作成

ライブ CD を作成します。

1. サポートサイト (<http://www.morikita.co.jp/soft/84731/>) からライブ CD の ISO イメージ・ファイルをダウンロードする。
2. ISO イメージ・ファイルをもとに CD を作成する (ファイルを、単に CD-R に書き込むのではなく、ディスクイメージとして使う。作成した CD を閲覧すると、LICENCE や COPYING というファイルがあるはず²⁾)。

2.2 ライブ CD の利用

作成したライブ CD でコンピュータを起動すると、図 2.1 のような画面になります。

ユーザ名 root、パスワード toor でログインして、startx とするとウィンドウシステムが起動します。このシステムは、本書で利用する各種ソフトウェアの設定がすでに済んだものです。ターミナル (後述) は「メニュー ⇒ システム」に、Eclipse と Firefox は「メニュー ⇒ インターネット」にあります (デスクトップのパネルにも登録してあります)。

ライブ CD は CD-ROM ですから、そのままでは作成・変更したファイルなどを保存することができません。変更は USB メモリやハードディスクに保存します。

ここでは、USB メモリに変更内容を保存してみます。ターミナル上で「touch test」として新たにファイルを作成し、この変更を USB メモリに保存します。システムを再起動して、この変更 (つまり作成したファイル) を復元できることを確かめましょう。

1. USB メモリをコンピュータに接続する。
2. USB メモリが認識されると新たにダイアログが出現する (とりあえず、「新しいウィンドウで開く」でいいでしょう)。

1) 開発環境の構築自体も勉強になりますから、付録 C (p.178) を参考に試してみるのもいいと思います。

2) USB メモリから起動したり仮想マシン上で利用する場合には、CD を作成する必要はありません。